

栗谷地区活性化を図る会（多気郡大台町（栗谷地区））

自分自身が楽しみ、豊かな郷土を守る

里の概要

大台町の中ほど、旧宮川村から松阪市飯高町へ通じる国道422号線沿いに位置する。面積のほとんどが山林で、林業で栄えた昭和20年代には130戸500人超の住民がいたが、過疎と高齢化が進行している。地区内には歴史ある霊符山太陽寺があり、「念仏踊り」という精霊送りの伝統行事を集落で400年守ってきた。

面積	世帯数	人口
約22Km ²	約75世帯	約180人

里づくりのきっかけ

少子高齢化・過疎化により農村が荒廃していくことに、危機感を持ち、農地を守る会の活動が始まった。最初は、せめて沿道だけでも整備しようと区の有志がチューリップや菜の花、そばなどを植えた。

里づくりの経過

平成12年	役場からの声かけで、栗谷区のお宝さがしをし、イラストマップを作成。
平成12年 ～ 平成15年	このことをきっかけに、地域興しが始まる。 ・ 各家庭で余った野菜などを売る無人販売所が設置される。 ・ 区の歴史的言われの残る三条山登山道を集落で整備。イベントとなる。 ・ 遊休農地活用のためそば栽培の復活 三条山登山イベントや、そば打ち体験などを行ううち少しずつ来客が増加してきたため、活動拠点施設整備の声が出始める。 平成14、15年には、ふるさと保全パートナー連携事業に取り組み、その縁は今も続いている。
平成15年	話し合いを重ねた結果、「やすらぎ空間整備事業」を活用して、活動拠点施設を整備することとなり、36人の有志で建設計画をまとめる。
平成16年	会員の出会い作業で地元産材を切り出し、製材を行い建設まで携わる方法で「夢楽憩いの館」が完成。5月、地域住民の憩いの場、都市との交流の拠点としてオープンする。
平成16年	9月台風21号により、甚大な被害を受ける。
平成17年	3月夢楽にて食の文化祭を開催する。
平成17年	夢楽憩いの館を増築し、8月に食品営業許可を取得 食事の提供ができるようになり、活動が広がる。
平成18年	活性化を図る会のメンバー2人が農林漁業体験民宿（体験民泊川原、みくり）を開業。

現在の活動

■ 夢楽憩いの館

会のメンバーが講師となり、そば打ち・こんにゃく作り・朴の木だんごづくり体験を予約で実施している。また、メンバーが交代制で土日祝日限定の郷土料理のランチを実施している。囲炉裏のあるスペースでゆっくりくつろいで頂ける。また、館の裏山には会員手作りのツリーハウスが2棟ある。



■ イベント

毎年、三条山登山のイベントを実施している。

活動のポイント

■ 高齢者の生き甲斐対策として、無理のない取り組みを

お客さんを喜ばせるだけでなく、まずは会のメンバーが楽しめるような形で取り組んでいきたい。そのために、意志の疎通をはかり、無理のない形で進めていきたい。今は会の活動に関わっていない集落の方々にも、参加していただける形に持っていきたい。

苦労話

会をいつまで続けられるか。経済的な面もそうだが、何よりも会と集落とうまく調和させていくのが今後の課題。

将来の展望

いつまでも仲良く和気あいあいとやっていきたい。都市からのお客さんは少人数でもいいので、ここを拠点に心暖まる交流をしていきたい。

ツリーハウスもなるべく自由に使えるよう、皆でアイデアを出し合ってやっていきたい。

連絡先

栗谷地区活性化を図る会

住所：〒519-2507 多気郡大台町栗谷183

電話：0598-76-1076

URL：http://www.odaitown.jp/web_kuri/index.html

ふるさと耕房大台（多気郡大台町（長ヶ地区））

田畑を耕し、自分の心を耕し、人間関係を耕す

里の概要

国道42号線を高奈から南へ。宮川、熊野街道に沿う長ヶ地区にある。東西、南は大紀町に接する。

総面積	世帯数	人口
約4.8K㎡	146世帯	409人

里づくりのきっかけ

統合により廃校となった小学校分校の木造校舎の再活用と、農地の荒廃防止策として、耕作放棄の田を活用し、収穫した農産物を加工して町の特産品づくりを推進していこうと考え、当時の区長さんが中心となって商工会の協力を得て計画を作った。

里づくりの経過

平成9年	長ヶ地区の区長を中心に会が発足。当初は場所が無かったため、県の勉強会に参加したり、公民館で試作品を作ったりし始める。出来上がった試作品は町内外のイベントで売っていた。
平成10年	国の補助金を受けて整備することになり、町が全町対象に会員を再募集し、会員が増える。
平成10年	小学校校舎が、農林水産物処理加工施設、活性化施設として生まれ変わる。 (国50%、県5%、町45%)
平成11年	4月から利用開始。
平成11年	10月販売拠点である道の駅奥伊勢おおだいがオープン

現在の活動

- 多数の農家女性で構成される6グループ（餅、菓子、うどん、漬物、草木染、バイオ）が活動している。作られた特産品は、道の駅奥伊勢おおだいほか、一部は多気町五桂のおばあちゃんの店やスーパーなどにも出荷されている。

主な特産品	ないしょ餅、茶々うどん、漬物、植物バイオ（和蘭）
-------	--------------------------



- 予約制で体験も行っている。

体験メニュー	うどん打ち体験、草木染め体験、バイオ体験
--------	----------------------

活動のポイント

- 地産地消

グループの皆さんは「ここにしかない安心安全な特産品を」、「趣味の作品から商品を」との思いで参加されている。今後も地元のよさがでるような、地元のものを作って、都会の人に提供していきたいとのこと。

- 定例で代表者会議を行い、情報共有を図っている。行政担当者も常に出席している。新商品開発の参考にするため、先進地視察も行っている。

苦労話

新商品開発には新たな設備投資が伴うことも多く、なかなか難しい。休耕田は恐いくらい増えており、何とか活用できないかと知恵をしぼっていますが・・・。

将来の展望

- ・ 会員すべて、家事・家業・勤めとの兼業でやっている。後継者づくりのためにも若手に入って欲しい。
- ・ 無添加、安心安全を貫きながら、商品の改良をしていきたい。(ないしょもち)
- ・ 活動場所に限りがあり、ビン苗までしか作れない。ここで作ったビン苗を地域で育てられるような体制がとれればと考えている(バイオ)

連絡先

ふるさと耕房大台

住所：〒519-2401 多気郡大台町長ヶ335番地

URL：<http://www.ma.mctv.ne.jp/~odai-kou/>

大台町役場宮川総合支所産業室

電話：0598-76-1714

元丈の里運営委員会（多気郡多気町（波多瀬地区））

薬草学の先駆者「野呂元丈」にちなんで

里の概要

多気町波多瀬地区は、多気町の北西部に位置し、北側は櫛田川を境に松阪市に接し、南側は烏岳を含む山林に囲まれた地域である。日本薬草学の先駆者である「野呂元丈」の生誕の地。

面積	世帯数	人口
約4.2K㎡	約200世帯	約600人

里づくりのきっかけ

昭和の初めごろから「元丈さん」を地区のシンボルにしよう、公園を整備しようという動きがあった。先人の思いを活かし平成2年には、行政からの支援を受けて200種類以上の薬草を植栽した薬草薬樹公園を開設。波多瀬地区の役員等により公園の管理、5～6名のグループで活動していた薬草同好会から発展した薬草部会により薬草の管理研究が進められ、それによる地域起こしが始まった。

里づくりの経過

郷土の偉人である「野呂元丈」を大切にしながら恵まれた環境資源を活かして充実した都市交流を進め、来訪者には安らぎとゆとりを実感していただける里とすることを目的として取り組んでいる。

平成2年	200種類以上の薬草を植栽した中山薬草薬樹公園を開設。
平成12年	地域活性化施設「元丈の館」をオープン。薬草を中心したに取り組みを始める。元丈の里運営委員会（地域住民25名で構成）で施設を運営。当初3年間は村からの人件費の助成あり。
平成15年	水土里ネット立梅用水との協働で自然体験学校をスタート 11月、薬草入りの「元丈の足湯」をオープン。
平成17年	自然体験工房館をオープン。

現在の活動

- 元丈の館（販売コーナー、展示室、図書コーナー、会議室）、薬草の足湯



公園内や休耕田で栽培したハーブを使った足湯は、毎日200人ほどの来客者でにぎわっている。松阪、伊勢などの近郊からの常連客のほか、大阪・名古屋方面からのツーリング客、老人介護施設からマイクロバスで訪れる方などもある。烏岳登山やウォーキングの拠点にし、疲れた足を癒す方も。一度に20人が入ることが出来、対面式でお客さんどうしの会話もはずむ。

■ 自然体験学校



年間20回以上開催、約500名の参加者がある。手が足りないときには地域の方の応援を頼むことも。最近では子供会での利用や、出前講座の予約も入るようになった。

- 里人に学ぶ（竹細工）
- 香りに学ぶ（草餅づくり、薬草観察と流しそうめん大会、ハーブリースづくりなど）
- 山に学ぶ（烏岳登山と元丈の足湯、山菜採りと山菜料理、椎茸の菌打ち体験）
- 土に学ぶ（茶摘み体験と手もみ茶づくり、こんにゃくづくり、さつまいも収穫）
- 水に学ぶ（里山用水ウォーキング）

随時開催の手打ちうどん体験、竹細工もある。秋には元丈の里まつりが開催され、今年は無料のジャンボ芋煮鍋が振る舞われ、大勢の人でにぎわった。

活動のポイント

■ 元丈の里運営委員会

委員長の区長を筆頭に各組頭など25名で構成されており、地区の全自治会が関わっている。従業員としては、館長（任期2年）ほか常勤8名、パート2名。薬草部、ハーブの会、花部会、桜を守る会などの部会がある。その他にも地域の多くの方が関わっていて、地域の応援がなければ成り立たない施設である。

■ 利益は2番目、一番目は・・・。

無料の足湯は思わぬ効果を発揮している。常連客には高齢の方が多く、毎日楽しみに通ってこられる。たとえ少額でも有料にすることは今のところ考えられないとのこと。お客様との交流や会話のなかで、得ることも多いとのこと。

苦労話

元丈の館の開設から3年間は村からの人件費の助成があった。助成が切れてからの運営については、半年ほどかけて議論を重ねた。“薬草の足湯”をやろうという意見には、反対の声も少くはなかった。

将来の展望

中山間地域の状況は深刻。ここを中心に地域の活性化を図っていきたい。そのために地域の中で、ひとりでも多くの人に活動に関わってもらうこと。そのきっかけを作っていきたい。

連絡先

元丈の館

住所：〒519-2204 多気郡多気町波多瀬 412-2

電話：0598-49-3933

URL：<http://www.ma.mctv.ne.jp/~genjyo/>

国津の社管理運営協議会（名張市神屋（国津地区））

地元のヒト・モノにこだわった都市との交流事業で地域活性化

里の概要

三重県の北西部に位置する。古くから豊かな森林資源を活用した林業や、米作を中心とする農業が盛んだったが、現在では、就労先を市中心部や、名阪国道沿いに立地した工場および大阪方面に求めており、担い手不足・高齢化が著しく、荒廃森林や耕作放棄地の増加が問題となっている。

総面積	世帯数	人口
24.8km ²	361世帯	912人

里づくりのきっかけ

若年層を中心とした人口流出とともに高齢化が顕著で、地域の森林や農地の適正な管理などが困難な状況となっており、高齢者の能力活用による生き甲斐の発揮や、地域資源を活用した都市との交流により、魅力ある地域を創造する必要性が生じた。

国津小学校PTAが中心となり地区内で色々な活動を実施していたが、平成9年に国津地区で都市と農山村の交流をキーワードとして地域の活性化計画「アララギプラン」を策定した。また平成13年には、公民館の老朽化に伴う改修も含め、活動拠点の建築を計画・実施した。

里づくりの経過

平成9年	地域の活性化計画「アララギプラン」策定。
平成12年	「国津農林コミュニティセンター」構想の実現を提案。
平成13年	（第5期）山村振興計画樹立
平成14年	新山村振興等農林漁業特別対策事業を実施（～平成17年）。
平成15年	はぐくみ工房あららぎ 完成。
平成16年	くにつふるさと館 完成。

現在の活動

■はぐくみ工房あららぎ



国津の材料を使って、様々なモノ作りを体験できる。指導員は地元住民で、利用者の年齢などに応じて、体験内容・材料等を用意してくれる。

（木工、わら細工、陶芸、草木染め、つる編み、竹細工）

■くにつふるさと館



地元住民の指導で、みそ・コンニャク作りを体験できる。地元の女性ボランティアが、20a 程の休耕田で栽培したこんにゃく芋を利用。大豆は、名張市内の転作田から取り寄せている。

活動のポイント

建設構想は「であい、ふれあいのまちづくり」をテーマ、「国津の木を使おう 名張の森を育てるために！」をサブタイトルとして、地元はもちろん近隣地域との交流にも重点を置き、若者からお年寄りまで魅力ある楽しいイベントが出来るように心がけている。また、地域産業にも貢献する意味から、使用する材料は地元産を取り寄せている。

苦労話

- ・場所が分かりづらく、問い合わせにも説明しにくい（現在看板等、対応を検討中）。
- ・地元組織のリーダーの存在、後継者不足。

将来の展望

- ・新メニューの開発
パン作り等を検討中、受入体制の整備・指導員の養成など、実施していきたい。

連絡先

くにつふるさと館

住所：〒518-0504 名張市神屋 814-4

電話：0595-62-6920

URL：名張市 <http://www.city.nabari.mie.jp/>

くにつふるさと館 <http://www.nava21.ne.jp/~kunitsu/furusato/index.html>